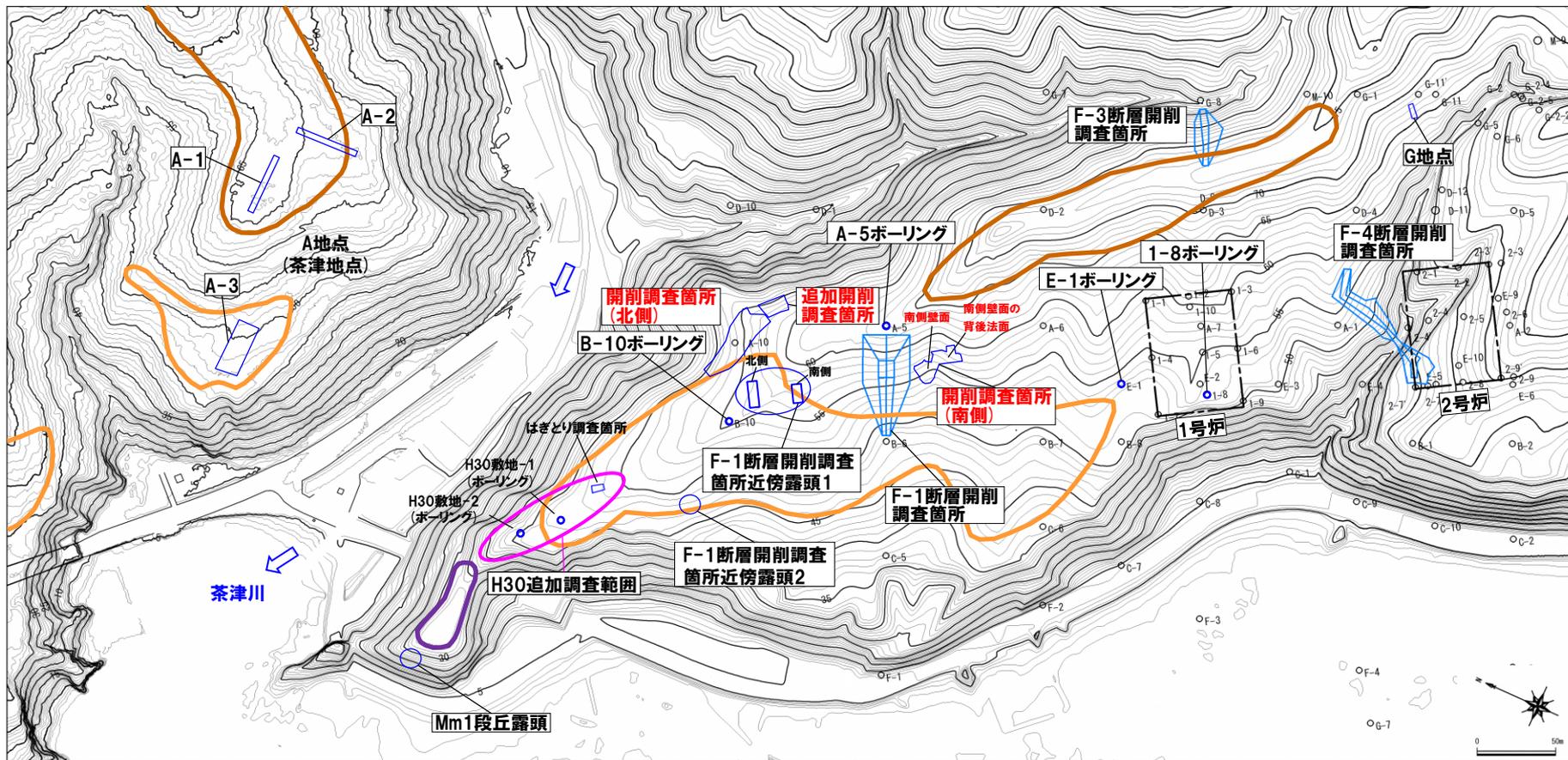


調査位置図

R3.7.2審査会合資料(一部修正)

F-1断層開削調査箇所付近の調査位置図



調査位置図 (改変前の地形)

F-1断層開削調査箇所付近

調査箇所	調査箇所
F-4断層開削調査箇所	A地点
F-1断層開削調査箇所	G地点
F-1断層開削調査箇所近傍露頭1	F-3断層開削調査箇所
F-1断層開削調査箇所近傍露頭2	Mm1段丘露頭
H30追加調査範囲	
開削調査箇所(北側)	追加の開削調査
追加開削調査箇所	
開削調査箇所(南側)	

【凡例】

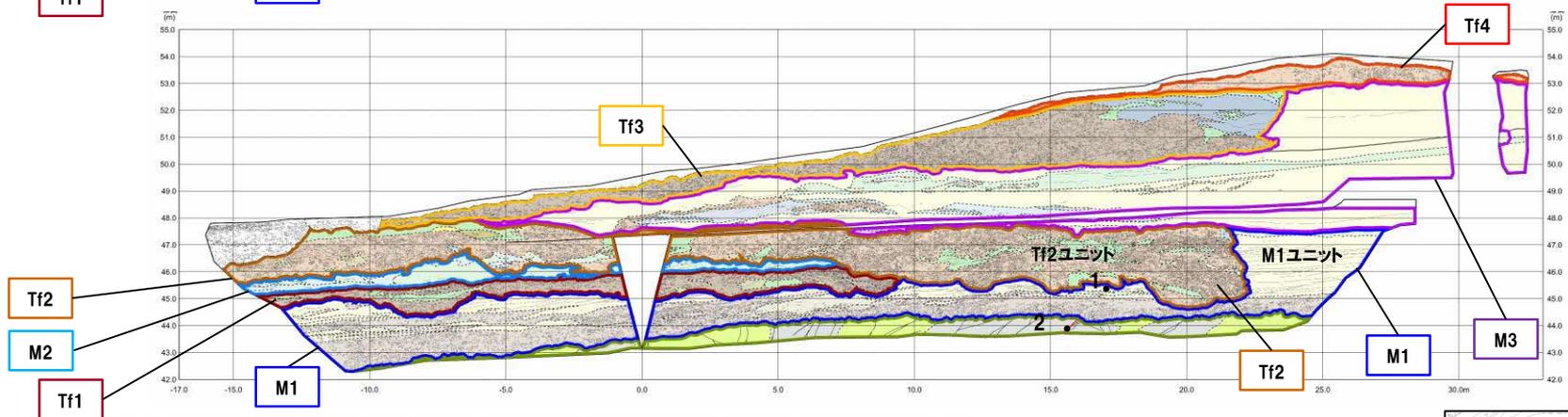
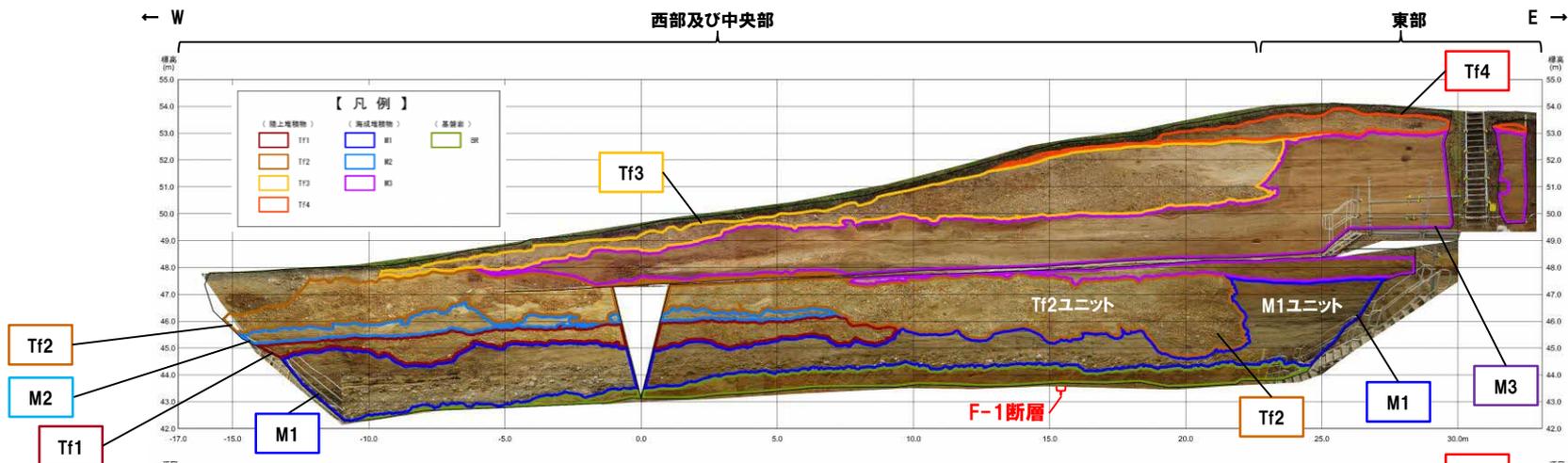
- Mm1段丘面
- Hm3段丘面
- Hm2段丘面
- 原子炉建屋設置位置
- 鉛直ボーリング

当図は、国土地理院1976年撮影の空中写真を
使用した空中写真図化により作成(1mコンター)

(1)開削調査箇所(北側)

R3.7.2審査会合資料(一部修正)

まとめ(3/4)



【凡例】

(露上地層物)	(海成地層物)	(基盤岩)
Tf1	M1	砂
Tf2	M2	
Tf3	M3	
Tf4		

(露上地層物)	礫混じり砂	礫混じりシルト
シルト質砂	シルト質砂	シルト質シルト
シルト質砂	シルト質砂	シルト
砂	砂	

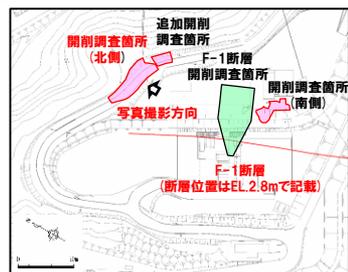
(基盤岩)	断層 (高液相中)	小断層
砂質泥岩	断理・地層構造	F-1断層
	標	

【小断層】 走向・傾斜

1. N5° W/35° W — 西上がり逆断層

【F-1断層】

2. N4° W/54° W — 西上がり逆断層



開削調査箇所(北側)北側壁面 写真及びスケッチ

調査位置図

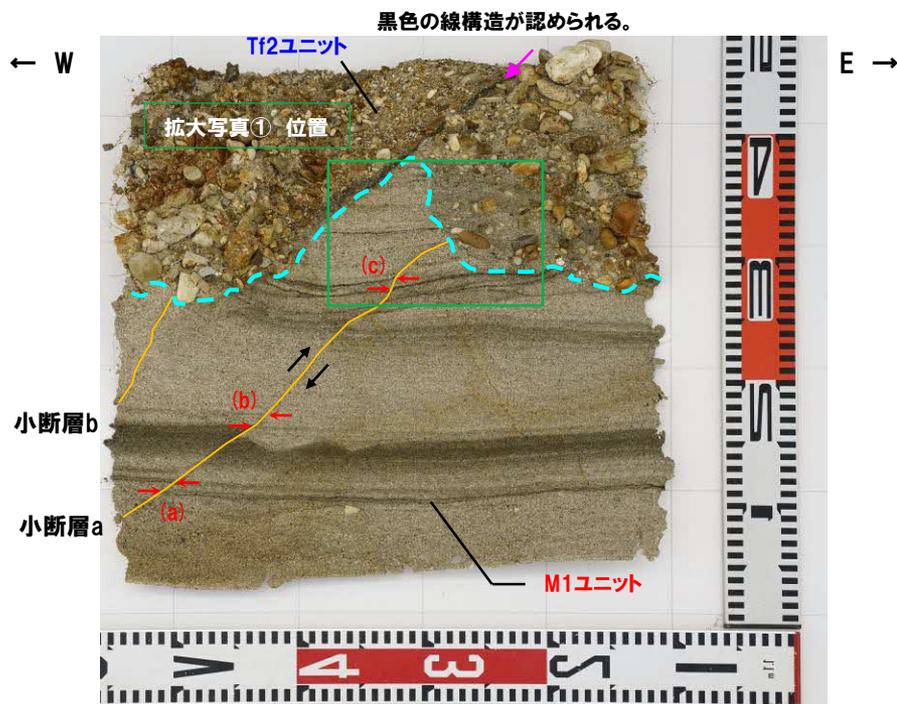
(1)開削調査箇所(北側)

R3.7.2審査会合資料(一部修正)

③-4 小断層上端付近の詳細観察-北側壁面追加はぎとり転写試料 (3/5) -

【観察結果】

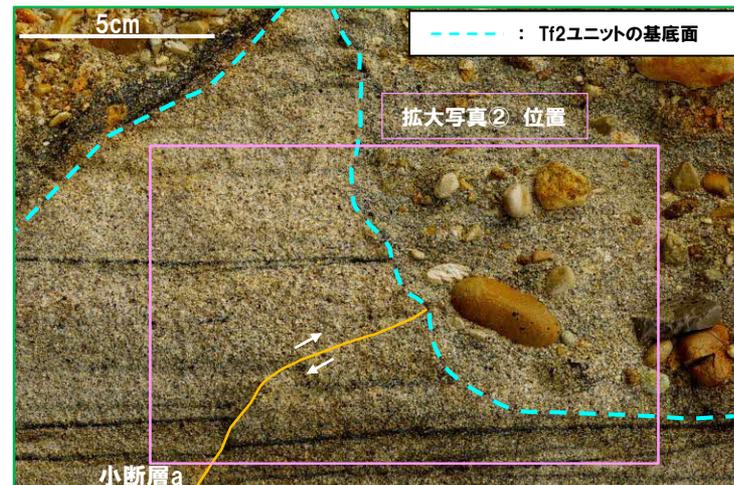
- 本はぎとり転写試料は、M1ユニットにおいて、小断層による葉理のズレがTf2ユニットの基底面直下で認められること及びTf2ユニットは砂礫層であるため、Tf2ユニットの基底面直下の変位量が小さい場合においても、小断層による変位・変形の有無が確認できる比較的細粒な層相を呈する断面である。
- F-1断層に関連する小断層は、M1ユニットに変位を与えており、Tf2ユニットの基底面直下まで剪断面が連続し、変位が認められる。
- 小断層に顕著な見かけ変位量の減衰は認められない。
- Tf2ユニットの基底面に、小断層による変位は認められない。
- Tf2ユニット中の比較的細粒な層相を呈する箇所に、剪断面は認められない。
- Tf2ユニットに、堆積構造の乱れは認められない。



はぎとり転写試料 写真(左右反転)(解釈線あり)

見かけ変位量 : (a) 約13mm
 (b) 約13mm
 (c) 約10mm

← : 見かけ変位量の計測箇所(砂層中の葉理のズレ)



小断層a上端付近 拡大写真①(左右反転)(解釈線あり)

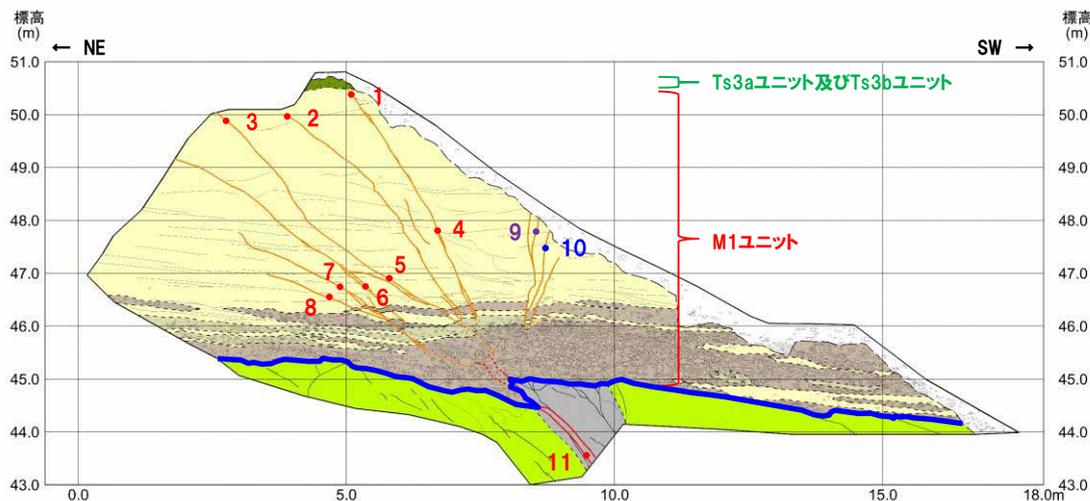
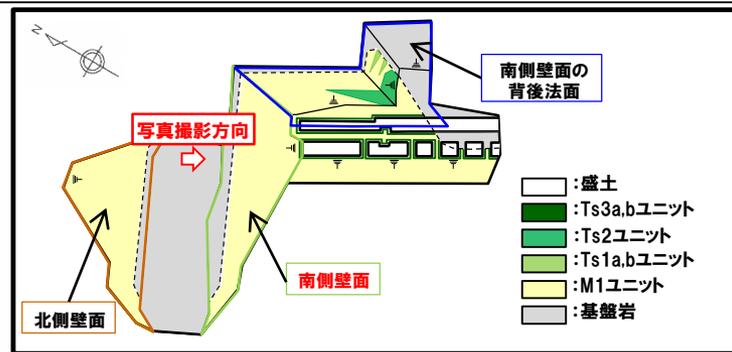
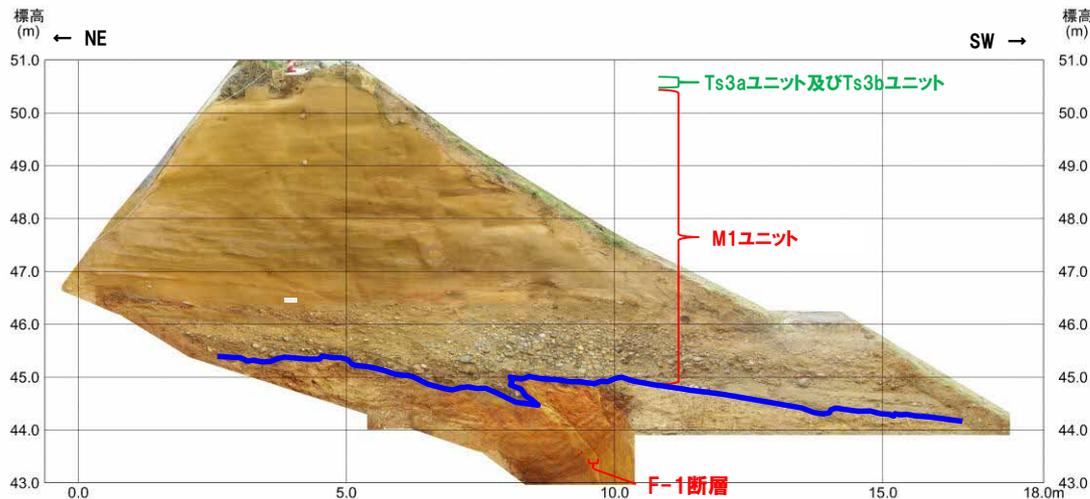


小断層a上端付近 拡大写真②(左右反転)(解釈線あり)

(2)開削調査箇所(南側)

R3.7.2審査会合資料(一部修正)

まとめ(4/6)



走向・傾斜

【小断層】

1. N20° W/50° W
2. N22° E/32° W
3. N14° E/40° W
4. N32° W/73° W
5. N42° W/24° W
6. N40° W/46° W
7. N46° W/36° W
8. N50° W/26° W

西上がり逆断層

【F-1断層】

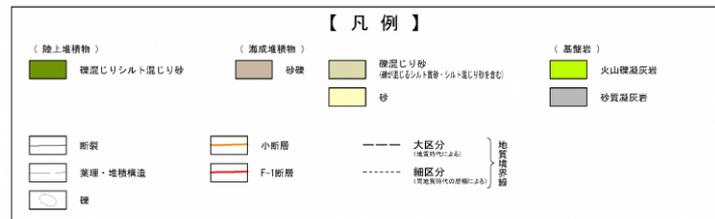
9. N2° E/80° W
10. N2° W/86° W
11. NS/46° W

東上がり逆断層

東落ち正断層

西上がり逆断層

開削調査箇所(南側) 平面模式図



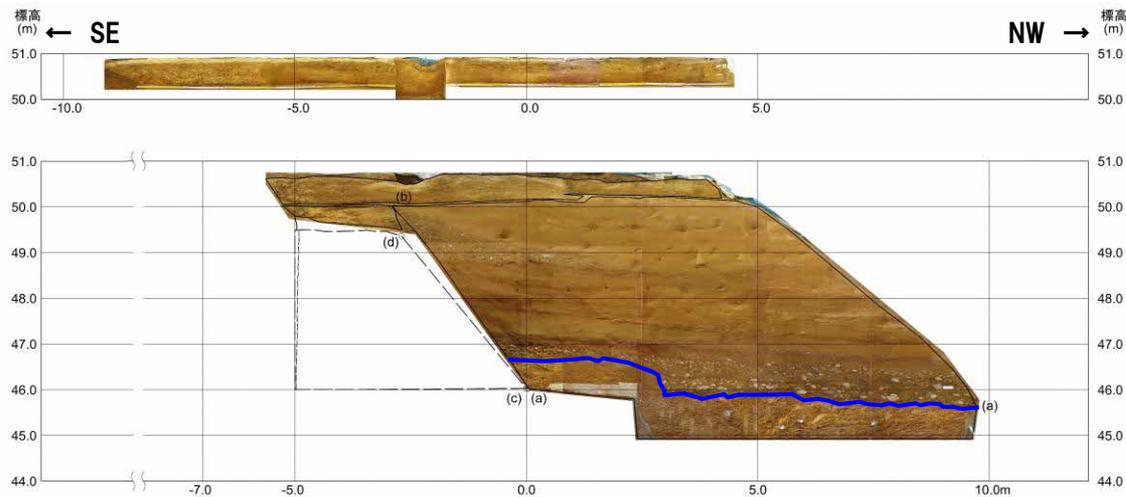
開削調査箇所(南側)南側壁面 写真及びスケッチ

(凡例)地層境界
— : 基盤岩上面

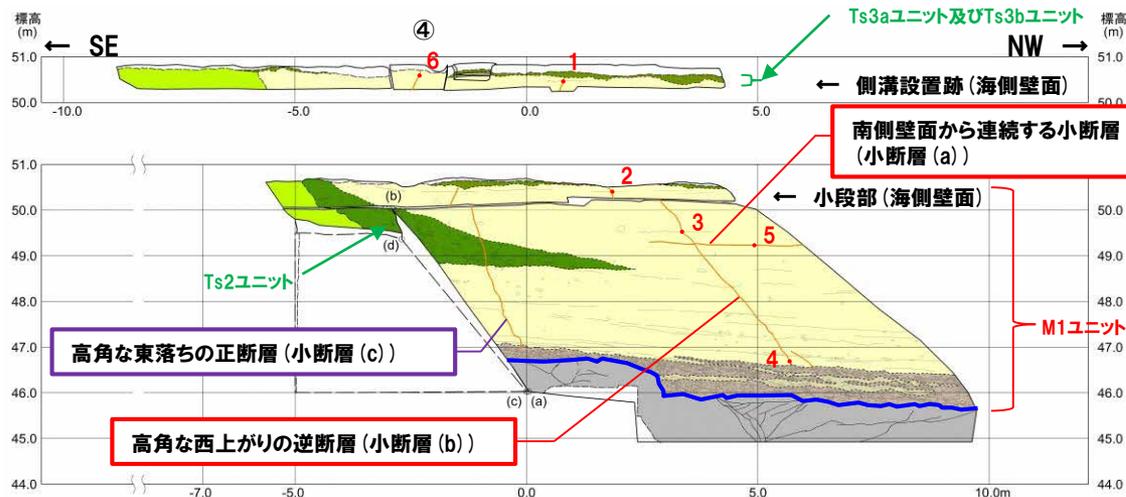
(2)開削調査箇所(南側)

R3.7.2審査会合資料(一部修正)

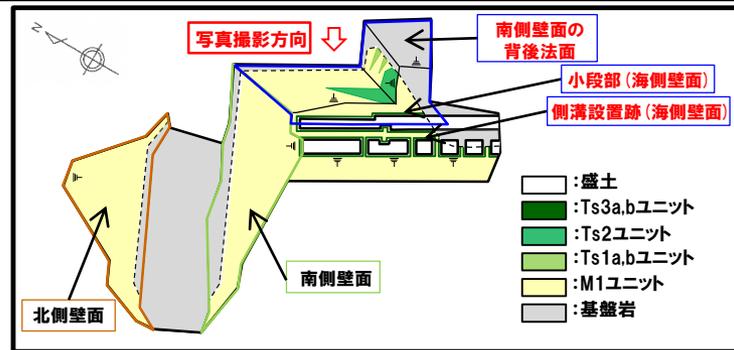
まとめ(6/6)



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面写真



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ



開削調査箇所(南側) 平面模式図

走向・傾斜

【高角な西上りの逆断層(小断層(b))】

1. N13° W/78° E*
2. N13° E/82° E*
3. N12° E/84° W
4. N14° E/88° W

【南側壁面から連続する小断層(小断層(a))】

5. N30° W/30° W

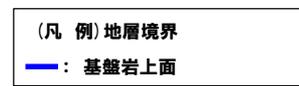
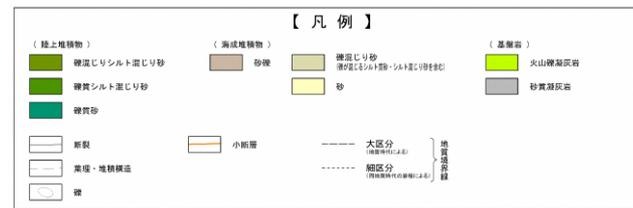
【高角な東落ちの正断層(小断層(c))】

6. N36° E/70° E

西上り逆断層

東落ち正断層

※小断層(b)の傾斜方向は上方に向かうに従い西傾斜から東傾斜に変化することで、見かけ正断層センスとなる状況が認められる。



(2)開削調査箇所(南側)

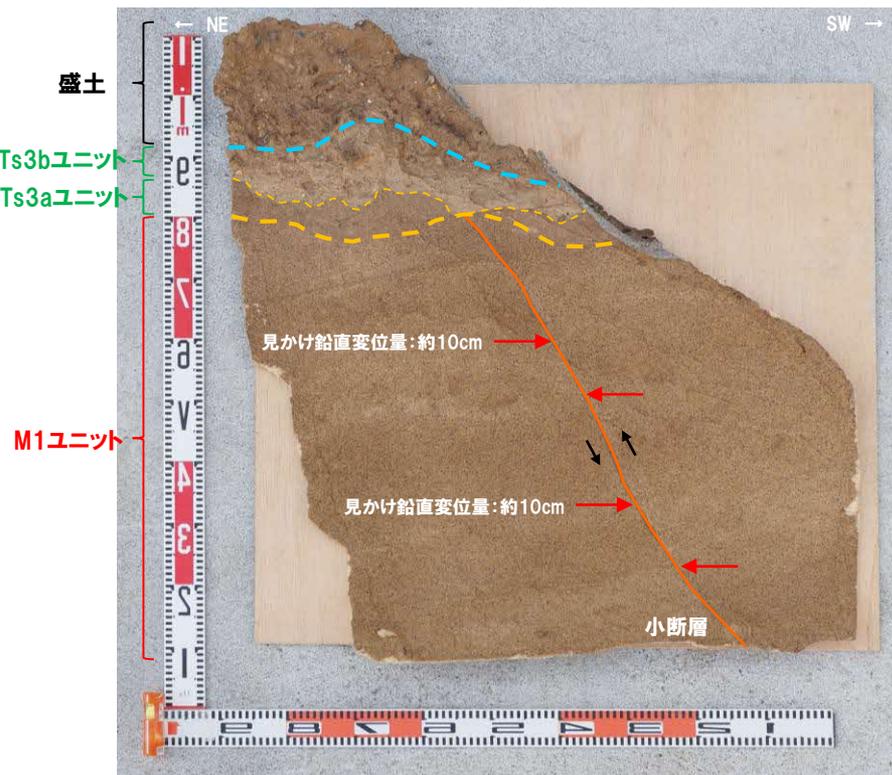
R3.7.2審査会合資料(一部修正)

③-1 小断層上端付近の詳細観察-南側壁面はぎとり転写試料(1/4) -

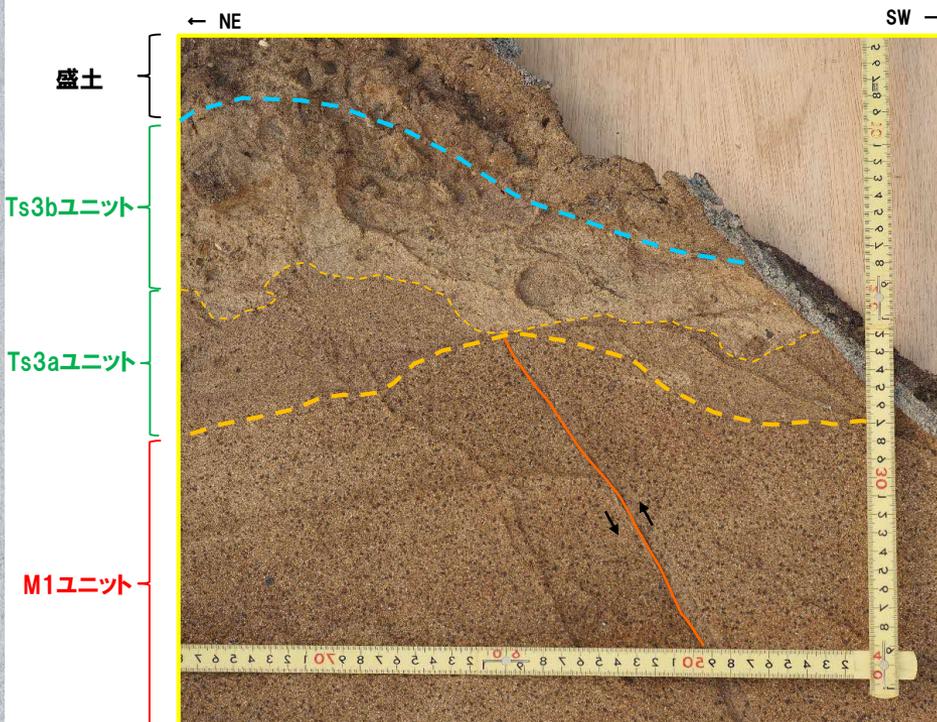
(南側壁面はぎとり転写試料1)

○本はぎとり転写試料において、以下の状況を確認した。

- ・小断層は、M1ユニットに変位を与えており、Ts3bユニットの基底面直下まで剪断面が連続する。
- ・小断層に見かけ鉛直変位量の減衰は認められない。
- ・Ts3bユニットの基底面に、小断層による変位は認められない。
- ・Ts3bユニット中に、剪断面は認められない。



はぎとり転写試料1 写真(左右反転)(解釈線あり)



小断層上端付近 拡大写真(左右反転)(解釈線あり)